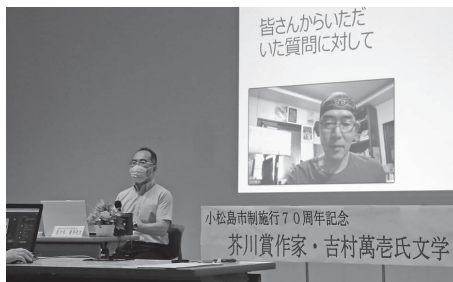


芥川賞作家 吉村萬吉さんの文学トークショーを
YouTubeのライブ配信で開催しました

8月28日、市制施行70年を記念して、本市にゆかりのある芥川賞作家 吉村萬吉さんの文学トークショーを開催しました。YouTubeのライブ配信で開催されたトークショーは、徳島文学協会会長の佐々木義登さんとの対談形式で展開。約200人の方が視聴されました。



Zoomにて出演する吉村さん(スクリーン上)と佐々木さん(左)



Twitterで寄せられた吉村さんへの質問(一部)

幼いころに訪れた小松島の思い出

大阪で育った吉村さんは、幼少期に父親の実家がある小松島を訪れた時のことを、今でも印象深く覚えていたとのこと。 「小松島への帰省は楽しく、思い出もたくさんあり

身体を動かさないと執筆は始まらない

小松島での親戚との交流など様々な思い出を語っていただきました。短編集「虚ろまんでいく」に掲載された作品「夏の友」は、幼少期の小松島での思い出がモチーフになっています。

作品の執筆について話及が及んだときは、「まず何か書かないと始まらない」と語られた吉村さん。 「小説のテーマなどについて、自分の頭の中だけで考え続けても、恐らく一行も

まず。夏休みに田浦町の父の実家に帰省していたんですが、勝浦川に泳ぎに行つたとき、父が雑木林のある対岸まで泳いで木に登るのを見て、都会育ちだった私はとても驚いたことを覚えてます」

書けません。私の場合はず原稿用紙に何でもいから文章を書きます。書くことがなければ適当に本を選んで書き写します。そして書きあがった文章を見て気になった言葉があれば、それをキーワードにして作品につなげます。まず身体を動かさないと始まりません」と執筆のコツを語られました。

トークショーでは他にも今後の文学の展望や、Twitterで寄せられた質問への応答など、様々な話題が語られました。トークショーの様子は小松島市公式YouTubeチャンネルでご覧いただけます。



【QRコード】

https://www.youtube.com/watch?v=x63Cna3KSE0

三谷 美代子さん
満百歳を祝う

三谷美代子さんが9月1日、満百歳の誕生日を迎えられ、市職員らが三谷さんの入所されている施設を訪問し、祝い状等を贈りました。

三谷さんは大正10年に小松島町にて出生。女学校を卒業後、23歳の時に結婚され3人の子どもを育てられました。戦時中は満州(現中国東北地方)に渡り、戦後に引き上げられてきたとのこと。三谷さんは手芸が好きで、身の回りの様々なものを自作されているとのこと。

この日、親族や施設職員の方々に祝福された三谷さんは、「穏やかな気持ちで、これからも1日1日を大切にしたい」と述べられていました。



三谷 美代子さん

生活相談の利便性向上を目指して
こまつしま生活自立支援センターが市内に移転

公益社団法人徳島県労働者福祉協議会が運営するこまつしま生活自立支援センターが、NTTビル内に移転し、9月1日開所式が行われました。センターは今まで徳島市内に事務所がありましたが、市民の方々からの生活相談の利便性向上のため、小松島市内へ移転することとなりました。

センターでは、引き続き生活に関するお困りごとについての相談対応を行っています。ぜひご利用ください(☎0120・783・141)。



開所に際してテープカットをする中山市長(右から2番目)